

新屋まちづくり拠点施設整備基本計画（概要）

1 本計画の位置付け

(1) これまでの経緯と目的

本市では、県都『あきた』成長プランに掲げる基本理念「ともにづくり ともに生きる 人・まち・暮らし」のもと、行政と市民がともにまちづくりに関わり、「住み続けたいまち」をともに作り上げる「市民協働」の取組を進めてきました。

少子高齢化が進行し、人口が減少する社会情勢の中、元気な秋田市をつくり、将来に引き継ぐためには、市民一人ひとりが地域の歴史や文化などの個性に誇りと愛着を持ち、保存・継承や人材育成に取り組み、成熟した地域社会の形成を目指していく必要があります。

この考え方のもと、新屋地区においては、あらやまちづくり懇談会からの提案（平成25年7月1日）を踏まえ、歴史と文化を活かした住民主体のまちづくりを支援するため、ワークショップにおける意見等を取り込みながら、今後のまちづくりの方向性をまとめた「新屋まちづくり基本構想（平成26年3月）（以下「基本構想」という。）」を作成しました。

【まちづくりの方向性】

- ア 地域資源の活用
- イ 作家・アーティスト、地域の人材育成
- ウ 住民活動の活発化・公立美術大学との連携

こうしたまちづくりを推進するため、基本構想では、地域のまちづくり活動（ソフト）と人材の交流（ネットワーク）の拠点となる施設（ハード）の必要性を掲げました。

【施設整備のコンセプト】

「芸術と文化が薫るまち新屋」の実現に向けた
『歴史・文化の継承』『ものづくりの精神の伝承』ができる拠点

広く若手アーティストの育成と美術大学の学生、一般市民の方々も活用できる体験・指導型の工房を整備する。工房は、「あきたガラスフェスタ」が10年目を迎え、市民に認知されていること、また、美術工芸短期大学でガラスを専攻した卒業生にガラス作家として活動している者が多いなどの実績を踏まえ、ガラス工房からスタートすることとした。

【想定する施設の機能と役割】

ガラス工房を中心に、アトリエ、ギャラリー、ショップ、カフェなど、敷地内を回遊できるように建物を配し、美術大学、醸造文化、点在する湧水、歴史ある町並みなどの地域資源を結び、地域の歴史とものづくりの精神を伝承していける施設

【施設建設地】

地域資源を活かし、地域のものづくりの歴史を伝えるとともに、芸術・文化によるまちづくりの拠点施設として、美術大学とJR新屋駅から等距離で、歴史ある町並や湧水などの地域資源を活かすことのできる新政酒造株式会社新屋工場跡地が最適

このような基本構想に基づき、今年度「新屋まちづくり拠点施設整備基本計画」を策定し、まちづくり拠点施設の整備計画を具現化するものです。

今後も、市民の皆さんが自らまちづくりを話し合い、活動すること、そして市が市民の活動を支える環境づくりを進め、住民主体のまちづくりのさらなる推進を目指していきます。

(2) 基本構想との関係

歴史的な町並みや湧水、醸造などの地場産業は、新屋の大切な地域資源であり、こうした歴史を次の世代に継承することは、新屋のまちづくりの原点でもあります。また、秋田公立美術大学も、新たな「ものづくり」の歴史を作っていく地域資源の一つを考えられます。

この基本計画は、基本構想を踏まえ、新屋の歴史と文化を活かしたまちづくりの拠点施設整備のための基本的な方針や施設内容等についての方向性を明らかにすることを目的とします。

2 施設計画

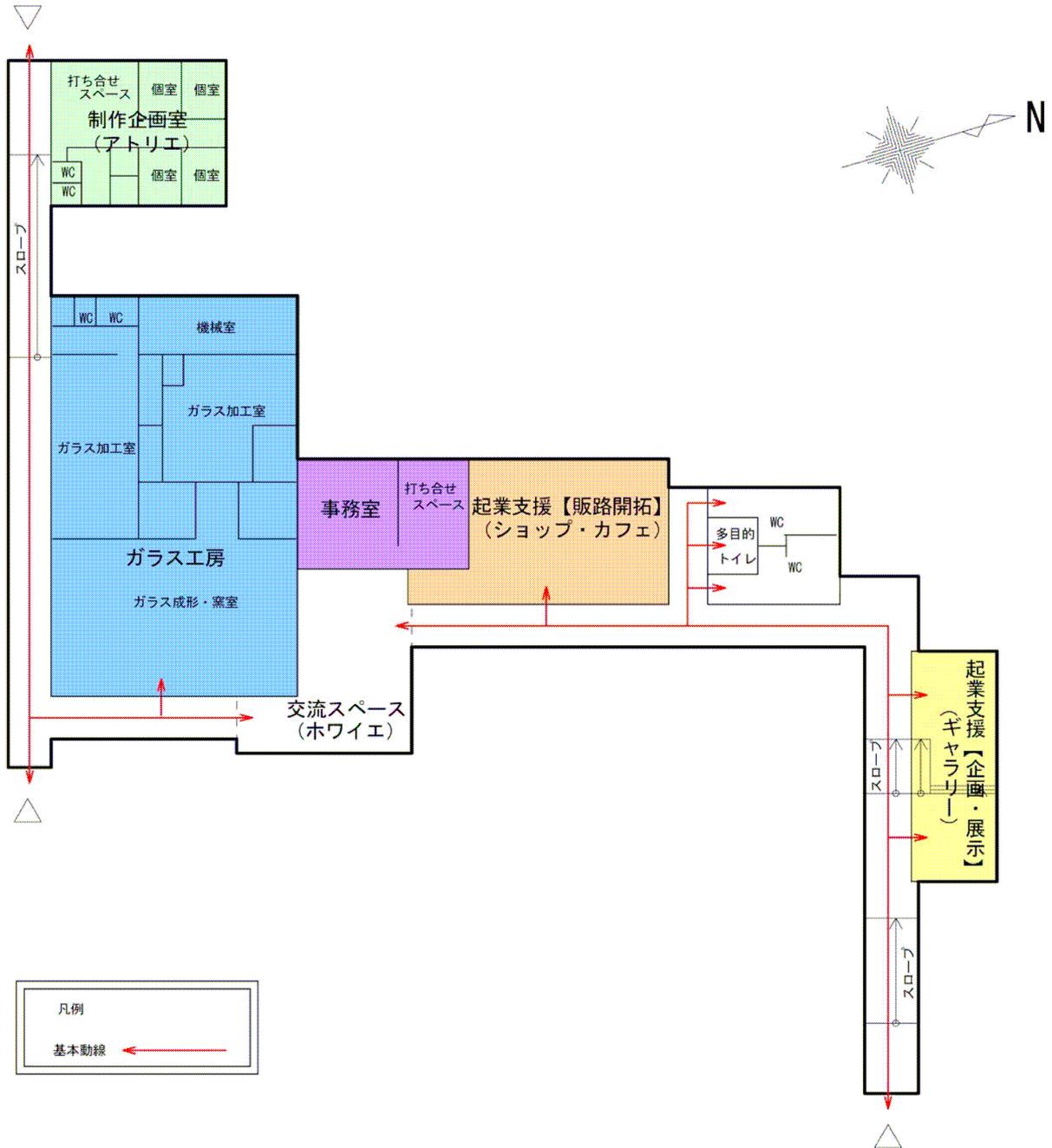
(1) 施設規模等

- ア 建設予定地 秋田市新屋表町104番地4 (6,525.63㎡)
商業地域(建ぺい率80%、容積率400%)、準防火地域
- イ 施設規模 約1,300㎡
- ウ 構造規模 木造(一部鉄筋コンクリート造) 平屋建
- エ 概算工事費 660,000千円
※ ガラス工房設備は別途約100,000千円を見込む。
詳細は設計段階で精査
- オ 施設機能 起業支援(企画・展示)スペース
起業支援(販路開拓)スペース
ガラス工房
制作企画室
交流スペース 等

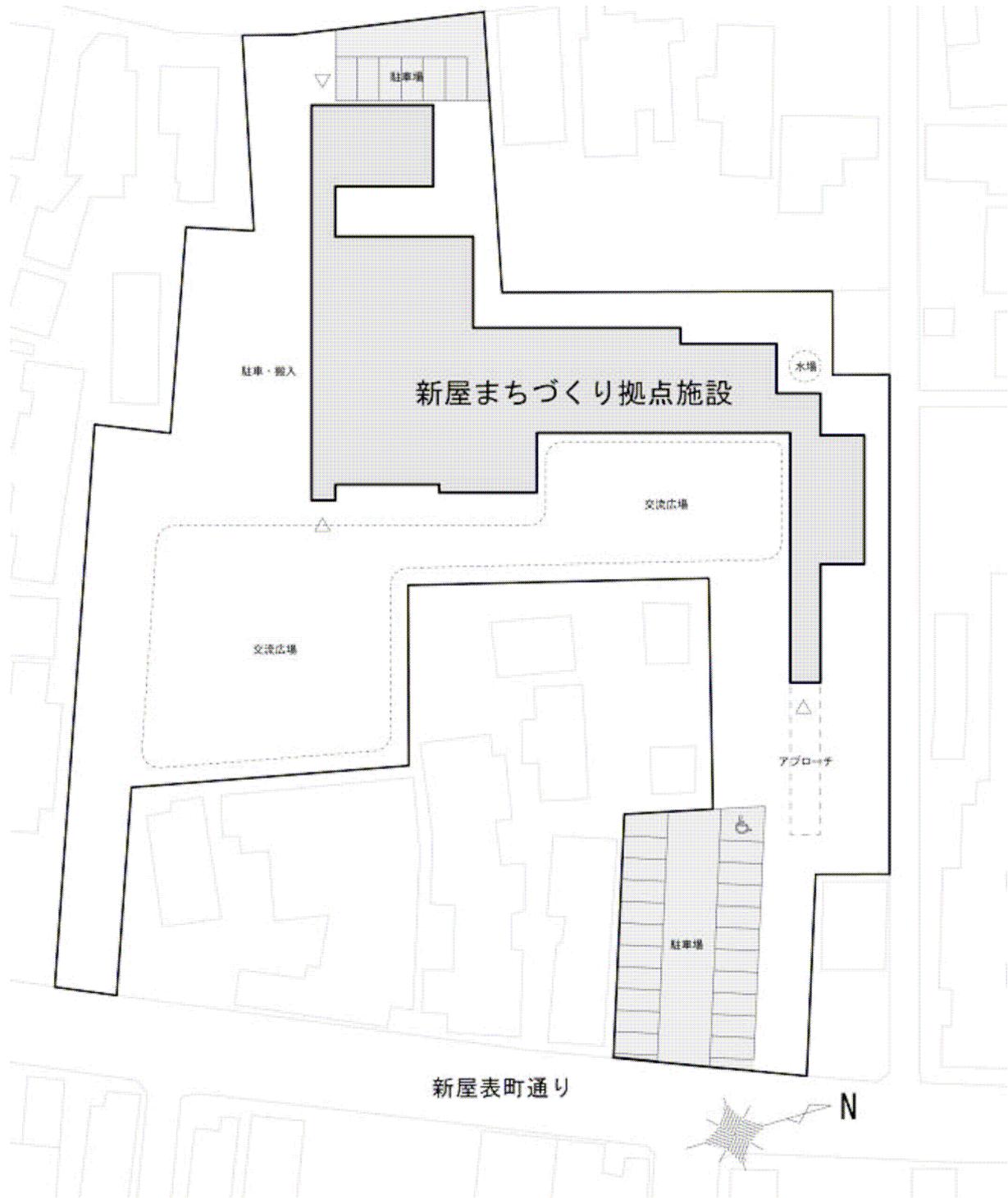
(2) 施設機能と基本的な考え方

施設機能	基本的な考え方
起業支援(企画・展示)スペース	<p>○ギャラリー 定期的に幅広いジャンルの作家やスタッフ（ガラス工芸での独立・起業を目指す若手アーティスト（美大卒業生含む）で、施設で一定期間雇用する。以下同じ。）の作品展示・企画展を開催、作家の紹介と作家同士の企画・交流の場 体験事業の説明やワークショップ、公開制作や地域の企画展示など自主企画の場（企画打ち合わせの場としても活用） 作家・美大生・地域市民が交流し、幅広くものづくりについて学べる場</p>
起業支援(販路開拓)スペース	<p>○カフェ 実際に作家・スタッフ等の作品（器・グラスなど）を飲食の提供に使用することによる、ニーズ把握と作家の認知度アップのための場（新屋の地場産品を使ったメニューの提供も検討） ○ショップ 作家（幅広いジャンル、美大出身・秋田出身など）やスタッフの作品販売の場 商品企画、商談経験、販路拡大など作家として独立・起業するまでのノウハウを学ぶ場 作品を介した購入者（市民）との交流の場</p>
ガラス工房	<p>起業を目指す若手アーティストを支援するとともに、ガラス工芸を通じて市民のものづくりへの関心を高めるための場 ①スタッフの制作工房 ②市民へのレンタル工房 ③スタッフによる体験型ワークショップ、小中学校体験授業など交流事業実施の場</p>
制作企画室	<p>起業を目指す若手アーティスト等がものづくりの制作・企画を行なうアトリエ 幅広いジャンルの作家、独立・起業を目指す若手アーティストへのレンタル</p>
交流スペース	<p>地域交流（地場産品販売やクラフト展など）に弾力的に活用できる場 ガラス工房の見学や休憩スペース 事務室前に配置し、スタッフが多目的に活用できる場</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・通路は敷地内を回遊しながら、建物の間を通り抜けるイメージとし、各施設機能を結ぶ空間として確保する。土地に高低差があるため、必要に応じてスロープを設置 ・交流広場は市民の休息や地域交流（地場産品販売やクラフト展など地域の小規模イベント）の場とし、鹿嶋祭などの際は地域で活用が可能 ・地下水を活用した水場（湧水スペース）を検討 ・駐車場は東側（表町側）と西側（関町側）の2箇所とし、合計で30台程度を想定

(3) 平面計画



(4) 全体配置計画



(5) 工程計画

平成27年度	基本設計・実施設計、地質調査 等
平成28年度	家屋等調査（事前・事後）、建設工事、設備・備品設置
平成29年度	5月開設予定

3 管理運営の方向性

(1) 基本方針

新屋まちづくり拠点施設は、地域の歴史と文化を活かした住民主体のまちづくりの拠点であり、ガラス工芸などのものづくりを通じて地域住民の交流を促進するとともに、作家としての独立・起業を目指す若手アーティストや美術大学の卒業生を支援しながら、まちづくりの人材を育成にもつなげていくことが望まれます。

地域の実情に即した有効な活用と、地域と連携した事業が実施できる管理運営体制が必要なことから、「指定管理」を基本とします。

(2) 運営体制

指定管理を担う団体は、起業支援のための指導やアドバイス、またガラス工房で独立を目指すスタッフの技術指導などをするとともに、登録制の市民サポーターとの連携により、弾力的な施設管理と地域連携事業の企画・運営を担うことを想定しています。

こうしたことから、施設開設当初は市が起業支援・ガラス工芸の技術指導、ものづくりの企画・運営などに必要な人材を雇用し、運営と自主財源確保の手法を固め、段階的に財団やまちづくり会社による指定管理に移行することが望ましいと考えられます。

具体的な運営体制は、平成27年度中に地域と協議していくこととします。